
工学部・知識工学部 共通分野

教 養 科 目

体 育 科 目

外 国 語 科 目

平成 28 年度 共通分野 教育課程表

学則第 18 条別表 1-1① 工学部・知識工学部 共通分野（教養科目・体育科目・外国語科目）教育課程表

○印必修科目

区 科 系 分 目 群 統		授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成 28 年度現在)	
					1 年		2 年		3 年		4 年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
教 養 科 目	人文学系	哲学(1)	G		2	2								大野晃徳
		哲学(2)	G		2		2							大野晃徳
		倫理学(1)			2	2								山本史華
		倫理学(2)			2		2							山本史華
		倫理学			2		2							矢島壮平
		文化人類学			2		2							鈴木洋平
		視覚芸術史(1)	G		2	2								岡山理香
		視覚芸術史(2)	G		2		2							岡山理香
		デザイン概論(1)	G		2			2						岡山理香
		デザイン概論(2)	G		2				2					岡山理香
		文学	G		2	2								秋山義典
		日本文学	G		2			2						木内英実
		西洋史(1)	G		2	2								新保良明
		西洋史(2)	G		2			2						新保良明
		民俗学	G		2			2						鈴木洋平
		比較文化史	G		2	2		(2)						クレイネス
	宗教学	G		2	2								長島大輔	
	社会科学系	社会学(1)			2	2								木村豊
		社会学(2)			2			2						木村豊
		社会学入門			2	2								塚田修一
		経済学(1)			2	2								伊藤潤平
		経済学(2)			2			2						伊藤潤平
		日本経済論	G		2					2				大守隆
		政治学(1)			2	2								森達也
		政治学(2)			2			2						森達也
		日本の政治	G		2				2					田中善一郎
		国際関係論(1)	G		2	2								中山裕美
		国際関係論(2)	G		2			2						中山裕美, 井上勇一
		日本国憲法			2	2		(2)						大沼友紀恵
		法学			2	2								大沼友紀恵
		民法			2			2						大沼友紀恵
		行政史	G		2	2								井上勇一
		西洋経済史	G		2			2						新保良明
		人文地理学			2	2								新井智一
		現代中国論	G		2			2						竹茂敦
		人間科学系	教育学(1)			2	2							
	教育学(2)				2			2						角田多加雄
	スポーツ・健康論				2	2		(2)						渡辺, 岩嶋, 久保
	心理と生理				2	2								渡辺昭彦
	文化とパーソナリティ				2			2						渡辺昭彦
	学習と動機づけ				2	2								千田茂博
	発達と教育				2			2						千田茂博
	心理学概論				2	2								森山徹
	心理学入門				2	2								川村久美子
	社会とジェンダー				2			2						西山千恵子
	国際化と異文化理解		G		2						2			山中美子
	日本文化の伝承		G		2			2						榎本宗白
	演劇文化論		G		2					2				小林由利子
	地域福祉論				2					2				倉田新
	現代の疾病と食生活			2				2					早坂信哉	
	自然・情報 科学系	論理学(1)			2	2								谷川卓
		論理学(2)			2			2						谷川卓
	その他	PBL による産学協働演習			2	2								野中謙一郎, 小林志好
		ボランティア(1)			1									専門学科教員
		ボランティア(2)			1									専門学科教員
		教養ゼミナール(1)			2	2		(2)	教養ゼミナールと教養特別講義は、各 4 単位 まで「教養科目」区分の卒業要件として算入 できる。それぞれ 4 単位を超える同科目の単 位は、卒業要件に算入できない。 科目詳細は、シラバスを参照すること。					
		教養ゼミナール(2)			2	2		(2)						
		教養特別講義(1)			2	2		(2)						
		教養特別講義(2)			2	2		(2)						

教育課程表

○印必修科目

区 科 系 分 群 統	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成 28 年度現在)	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
体育科目	基礎体育(1)	○	1	2								体育教室	
	基礎体育(2)	○	1		2							体育教室	
	応用体育(1) *集中授業あり		1			*2	*(2)					体育教室	
	応用体育(2) *集中授業あり		1			*2	*(2)					体育教室	
外国語科目	英語科目	Study Skills	○	1	2								秋山義典, 三幣友行, 他
		Communication Skills(1)	○	1	2								秋山義典, マディーン, 他
		Communication Skills(2)	○	1		2							秋山義典, マディーン, 他
		Reading and Writing(1)	○	1		2							秋山, 三幣, 寺澤, 他
		Reading and Writing(2)	○	1			2						日高, 三幣, 寺澤, 他
		TOEIC Preparation	○	1				2					日高, 三幣, 寺澤, 他
		英語でライティング&プレゼンテーション		2	2	(2)							ブラウン
		アカデミック・イングリッシュ・セミナー		2	2	(2)							マディーン, ブラウン, ミラー, 他
		Advanced TOEIC		2	2	(2)							和田忍、松本淳子, 他
		英語読解力養成		2	2	(2)							稲垣亜希子, 竹内裕見子
		海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)							外国語教室
		英語文法トレーニング		2	2	(2)							日高, 三幣, 沢村
		英語発音・聴解トレーニング		2	2	(2)							マディーン, 三幣友行
		キャリア・イングリッシュ		2	2	(2)							マディーン
		サバイバル・イングリッシュ		2	2	(2)							マディーン
		ニュースを英語で読む		2	2	(2)							今滝暢子
		スポーツで学ぶ英語		2	2	(2)							日高正司
		映画で学ぶ英語		2	2	(2)							秋山義典, 寺澤由紀子
		文学で学ぶ英語		2	2	(2)							水戸俊介
		音楽で学ぶ英語		2	2	(2)							秋山義典
	Cultural Comparison		2	2	(2)							Y C 開講	
	Modern Society		2	2	(2)							Y C 開講	
	科学技術英語		2	2	(2)							三幣友行	
	外国語特別講義(1)		2	2	(2)								
	外国語特別講義(2)		2	2	(2)								
	英語以外の外国語科目	ドイツ語(1)		1	2	(2)							権平, 田村, 中村, 他
		ドイツ語(2)		1	2	(2)							権平, 田村, 中村, 他
		フランス語(1)		1	2	(2)							富塚真理子
		フランス語(2)		1	2	(2)							富塚真理子
		スペイン語(1)		1	2	(2)							センザノ・クリスティーナ
		スペイン語(2)		1	2	(2)							センザノ・クリスティーナ
		イタリア語(1)		1	2	(2)							チンツィア コデン
イタリア語(2)			1	2	(2)							チンツィア コデン	
中国語(1)			1	2	(2)							中川友	
中国語(2)			1	2	(2)							中川友	
アラビア語(1)			1	2	(2)							モハンマド ファトヒー	
アラビア語(2)			1	2	(2)							モハンマド ファトヒー	
韓国語(1)		1	2	(2)							白雪花		
韓国語(2)		1	2	(2)							白雪花		

卒業要件	教養科目	10 単位	
	体育科目	2 単位	右記を含むこと ○必修科目 2 単位
	外国語科目	8 単位	右記を含むこと [外国語科目(英語科目)] 区分より, ○必修科目 6 単位および選択科目 2 単位

G : 国際化(グローバル化)に対応した教養科目

「教養科目」において, 「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し,
国際化(グローバル化)に対応した教養となる科目に, 「G」を付している。

共通分野

共通

教養科目・体育科目・外国語科目

教養科目

1. 本学の教養科目

環境、食、家族、老いなど、現代社会には特定の専門領域だけでは解決できない複雑な課題が山積している。しかも、賛成か反対か二択を迫られることが多く、そうした場面での判断には、何より客観的、合理的に自分の頭で考える洞察力、比較力、批判力、評価力が必要となる。このような状況を踏まえれば、「教養」とは広い視野に立ち、事物を多様な視点から見ることができる複合的能力であると一先ず定義できる。その結果、以下の教養科目受講を求めたい。技術者は製品作りの過程で、営業、広報、経理など多くの部門と接触せねばならない。もちろん、技術者はこれらの部門に関し素人である。そこで、異なる専門家同士をつなぐ回路が必要となる。それが教養科目である。工学系の学生は経済学、倫理学などの履修により費用対効果、企業倫理、法令遵守の重要性などを知っておく必要がある。従って、「ものづくり」のみで終わることなく、複合的に物事を見る姿勢が望まれるわけである。卒業後を見据えた上で、文系型教養科目の履修が持つ重みを理解しよう。さらに、グローバル化が求められる中、「国際化に対応した教養科目」の区分にも目を向けてもらいたい。

2. 本学における教養科目と専門科目の関係性

教養科目の到達目標は洞察、比較、批判、評価など多岐にわたる能力の習得にある。社会に出れば、誰もが専門領域以外の多様な問題に直面せざるをえず、そのときに必要とされるのが事物を多面的に捉える視点である。つまり、これまでに習得した知識・技能などを総合的に活用して自ら判断を下し、直面する課題を自律的に解決できるのかどうか、が問われる。さらに、異なる専門分野の者同士が一つのプロジェクトを協力しながら遂行していく場合、互いの専門の結節点を探らねばならない。この接着剤・潤滑油的役割は総合的判断力を培うことを志向する教養科目によってかなえられる。以上から、教養科目の受講とは、学生が柔軟な思考力を培って主体性を鍛え、国際性を身につけ、創造性を伸ばすことを保証するためにあると言える。

このように、本学の教養科目は次のように位置づけられる。(a)教養科目は異なる学部・学科間の専門分野を関連付け、結びつけるツールであると同時に、新しい視野を学生に提供する。(b)専門外の視点を与えることで、社会人としての素養を学生に身につけさせる。(c)人生の幅広い指針を学生各自に考えさせる。

従って、教養科目は専門基礎科目と専門科目から成る有機体を包み込むと共に、そのどの分野とも関連せざるをえない広域科目なのである。

3. 教養科目の全学共通化

本学では、3キャンパス開講の、ほぼすべての教養科目を履修することができる。所属キャンパスにとらわれることなく、自分の興味関心に基づき、主体的に科目を選んでもらいたい。キャンパス間の交流が進むことにも期待したい。

履修上の注意事項

- (1) 教養科目はすべて選択科目である。大半の科目は1年次から履修できる。しかし、2年次以上など受講上の条件のある科目もあるので授業内容と条件を吟味の上、各学年で2～4科目程度の科目を選択して履修する。3年次終了時までには「卒業研究着手条件」を満たすように教養科目を修得する必要がある。
- (2) 教養ゼミナールは、名称・内容ともに担当教員の積極的な提案によって開講されている。受講者は少人数を原則とし、学科・学年を問わず履修できるので、学生同士や教員との交流も深めることができ、学生にとって極めて有意義な経験となるであろう。
- (3) 「教養ゼミナール」と「教養特別講義」は、それぞれ4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。
なお、それぞれ4単位を超える同科目の単位は、卒業要件に算入できない修得単位（卒業要件非加算の特別履修）とする。
- (4) 教育職員免許状を取得しようとする者は、教養科目の「日本国憲法」を必ず履修しなければならない。
- (5) 「G」を記した「国際化（グローバル化）に対応した教養科目」とは、グローバル化が問われる現代社会の中で履修を推奨される科目のことである。つまり、オーストラリアなどへの留学の有無にかかわらず、教養人として海外の「事情・歴史・文化」は知っておくべきであり、その一方で、今後、我が国の「事情・歴史・文化」を外国人に発信することが求められる。国内または国外の共通項を取り上げる科目として、履修選択の際の参考にしてほしい。

体育科目

近代文明の急速な発展は、あらゆる面で人間の生活を便利にしている一方で、人間を動かない方向に押しやってもいる。例えば、労働形態の変化、モータリゼーション、家庭生活の電化等により、我々は日常生活で体を動かす機会、特に「歩行」という人間が生きていくうえで必要不可欠な基本運動を少しずつ失ってきている。このことは単なる身体機能の低下にとどまらず各々の心身にも多くの歪みをもたらし、精神・神経障害、運動機能障害、循環器障害、退行性変化、更には代謝異常へと結びつく要因となっている。これらの多くは運動不足症候群とも呼ばれ、憂うべき現象をもたらしている。このような現状を踏まえ、本学での体育は、身体に関する基礎知識や身体運動の習慣を身につけることを目指している。

大学時代は自己のライフスタイルを確立する大切な時期であり、この確立の根本には健康な体が前提視されるであろう。「スポーツ・健康論（教養科目）」や「教養ゼミナール（教養科目）」を通して運動と健康や体力との関わりを認識し理解するとともに、実技（スポーツ）を通してダイナミックな喜びを実感（共感）し、人間がぶつかり合って関係を創り出す社会的能力を身につけてほしい。更には、ここでの経験が生涯にわたって健康的な生活を自律的に、しかも積極的に送っていく礎となればと願っている。

履修上の注意事項

- (1)「基礎体育(1)、(2)」は、1年次における必修科目である。

基礎体育(1)

1年次前期に開講され、バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球の4種目があり、希望する種目を選び半期履修する。

基礎体育(2)

1年次後期に開講され、バスケットボール、サッカー、テニス、卓球の4種目があり、希望する種目を選び半期履修する。

※履修に際しては、指定の体育館シューズを必ず購入しなければならない。

- (2)「応用体育」は、2年次以降いずれの学年においても履修することができる全学科共通の選択科目である。

授業形態としては半期ごとに行われる通常授業と、休業中に宿泊を伴って行われる集中授業がある。

応用体育 通常授業

通常授業は、バドミントン、テニス、球技等が開講されており、種目等の詳細については、学期始めに掲示並びに授業の際にガイダンスがある。履修制限並びに履修申請の都合上、1回目のガイダンスに必ず出席すること。

応用体育 集中授業

集中授業は、夏はゴルフ、冬はスキー・スノーボードを開講している。

ゴルフは、学内での授業を3回（8月はじめ並びに9月はじめ）と群馬県にあるサンコー72カントリークラブにて2泊3日（9月上旬）の宿泊並びラウンドを行う授業となっている。経験者はもちろん、初心者でもショートコースから実際のコースまで体験できる授業となっている。

スキー・スノーボードは、岩手県にある安比高原スキー場にて3泊4日（2月上旬）の授業となっている。初心者から上級者まで対応しており、上達することは間違いない。希望者はSAJ（全日本スキー連盟）の級検定もできる。

※集中授業の履修に関しては、詳細を掲示するとともに申込用紙を14号館2階の体育事務・管理室前に置いておくので記入し、提出をすること。

なお、「応用体育」は、通常授業、集中授業関係なく履修順に「応用体育(1)」「応用体育(2)」として認定される。

外国語科目

外国語教育の目標は国際社会においてコミュニケーション活動が円滑に行えるように、外国語の運用能力を高めること、異文化を深く理解すること、同時に自国文化の発信能力を身につけた人材を育成することにある。本学では、この目標を達成するために、「都市大スタンダード」というカリキュラムを用意している。これにより、英語では習熟度に合わせ実践的に4技能が学べるカリキュラム編成をしている。入学時に英語の基礎力をみるためのプレースメントテストを受験し、その成績をもとにクラス編成が行われる。さらに、学年末にはアチーブメントテストを受験し、その成績で各自の英語運用能力を判定し学習改善を図るシステムになっている。

「都市大スタンダード」として、英語は1年次4単位、2年次2単位の計6単位が必修となる。その内訳は、1年次前期の「Study Skills」と「Communication Skills(1)」の2単位、1年次後期の「Communication Skills(2)」と「Reading and Writing(1)」の2単位、2年次前期の「Reading and Writing(2)」ならびに2年次後期の「TOEIC Preparation」の2単位である。これらの英語必修科目は、到達目標・学習内容・評価基準が統一されており、全キャンパスの受講生はこの統一カリキュラムによって英語運用能力の向上を目指すことになる。

「都市大スタンダード」には、選択科目（応用科目）も用意されており、1科目で2単位を修得でき、これは卒業要件になっている。「アカデミック・イングリッシュ・セミナー」、「Advanced TOEIC」、「英語文法トレーニング」、「英語発音・聴解トレーニング」など開講される選択科目は、いずれのキャンパス・学年でも履修できる。さらに、オーストラリア・カーティン大学英語研修プログラムへの参加で、「海外・特別選抜セミナー」の単位を修得できる。必修科目を履修しながら、選択科目にも積極的にチャレンジしてほしい。選択科目を積極的に受講することによっての英語の「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を伸ばすことができるだけでなく、異文化理解を深めることができる。

なお、英語はすべて演習科目なので出席不良は認められない。必修科目の成績不良などで単位を修得できなかった学生は、原則として再履修者クラスを受講することになっている。

TOEIC、TOEFL、英検等の検定試験の受験者が高得点を得て申請を行うことで必修科目の受講が免除され、単位が認定される制度も設けている。学内外で行われる検定試験にも積極的に挑戦してほしい。4年間での検定試験の好成績は、就職や進学に有利である。

一方、英語以外の外国語科目はすべて選択科目である。中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、アラビア語が開講され少数で学べる環境が整っている。外国語を学ぶことは国際的視野を広げることにつながり、積極的に受講してほしい。

語学力は学習を積み重ねて向上するものであるから、教室での演習に積極的に参加することはもちろんのこと、教室外でも予習、復習に力を入れる必要がある。語学をしっかりマスターするには、言葉のルールである「文法」は不可欠である。短期間で言葉のルールを身につけることは外国語学習にとって効率的な方法である。授業で培った語学力はあらゆる場面で「使用する」ことが重要である。外国語を使うことを学生生活の一部にしてみよう。いつでもどこでも勉強できるネットやメディアを有効に利用しよう。映画・ドラマ、テレビ・ラジオの語学講座、海外旅行、短期留学などを活用することも語学学習のモチベーションを上げることにつながる。ことばは人間や文化を結びつける力をもつ。自分に合った学習環境を創り外国語を学んでいこう。

履修上の注意事項

- (1) 英語は以下の6科目が必修である。

1年前期	Study Skills	Communication Skills (1)
後期	Reading and Writing (1)	Communication Skills (2)
2年前期	Reading and Writing (2)	
後期	TOEIC Preparation	

- (2) 上記6科目以外の英語科目は選択であり、クォーター科目を除き授業は1時限半年単位で行われる。履修はいずれの学年でも可能である。なお、横浜および等々力キャンパスで開講される選択英語科目も履修できる。他キャンパスの授業時間表を参照し、特別履修申告書により履修登録を行うこと。

- (3) 4月のオリエンテーションにおいて英語基礎学力テストを行う。その結果を基に1年次の必修科目のクラス分け、履修免除対象者の選定が行われる。その結果は履修登録以前に通知されるので、結果に応じた履修申告を行うこと。
なお、必修4科目の受講免除を受けた場合は、指定の選択科目「Advanced TOEIC」あるいは「アカデミック・イングリッシュ・セミナー」を必ず履修すること。
- (4) 英語の必修科目を修得できなかった学生は、原則として翌年に開講される該当科目の再履修クラスで履修すること。
- (5) 「中国語」「韓国語」「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「イタリア語」「アラビア語」の授業は、いずれも全学科全学年共通に、週1時限半年単位で行われ、いずれの学年でも履修できる。なお、英語科目以外の外国語科目の「・・・(1)」「・・・(2)」の履修は、順序どおり履修することが望ましい。
- (6) 英語必修科目の単位認定（履修免除）について
下記の条件①または②が満たされた場合には、満たした条件に応じて上記(1)の必修科目の一部履修を免除し、単位を認定する。
どの必修科目が認定されるかはスコア次第であり、外国語共通教育センターが決定する。

認定条件①

外国語共通教育センターが実施する英語基礎学力調査において履修免除に該当する学力があると認められる場合、スコアに応じて1年次開始時実施の場合は最多1年次必修4科目の履修を免除する。また、1年次終了時実施の場合は2年次前期必修1科目の履修を免除する。

認定条件②

以下に示す検定試験を受験し、高得点者もしくは上級合格者と認められる場合、内容に応じて最多必修科目6科目の履修を免除する。

[認定基準]

- (a) TOEFL 試験において 60 点（I B T）以上のスコア
- (b) TOEIC 試験において 570 点以上のスコア
- (c) 英検準1級以上の合格者

[手順]

学期初め 1 週目	該当学生はスコアカードまたは証明書を用意して外国語共通教育センターへ申請する。 (入学時の英語基礎学力テストのスコアは申請不要である)
↓	
学期初め	外国語共通教育センターがスコアや証明書をもとに成績判定を行い、申請者に通知する。
↓	
成績確定日	申請者は該当する履修免除科目の単位が取得できているかを成績表で確認する。

* なお、学期中に検定試験等を受験して、受講科目の免除の条件を満たした場合は、学期中でも申請して該当科目の受講を免除されることがある。